

## 自己点検・評価について

## ① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

質保証推進委員会 / 自己点検評価委員会 / 教育推進機構会議
---------------------------------

(責任者名) 伊藤 真宏(役職名) 学長

## ② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムを構成している全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」は全学部1年生の必修科目となっており、1年生の春学期に45クラス開講し、1,576名が履修登録している。</p> <p>また、全学教養科目「情報・メディアと社会」は選択科目となっており、全学部の学生が履修可能である。なお、2024年度は69名が履修登録している。</p>
学修成果	<p>全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」では、45クラス統一でシラバスで実施しており、到達目標を</p> <p>①本学の情報環境を把握し、情報機器が利用できるようになる。          ②PCを用いて文献等の検索、文書作成、プレゼンテーション資料の作成、表計算、図表作成ができ、それらのソフトを組み合わせて活用することにより、大学授業での課題作成や論文作成に応用できるようになる。          ③ PC利用における基本的な情報モラルおよびセキュリティ対策を実践できるようになる。          ④ Society5.0で実現される社会について説明できるようになる。</p> <p>以上の4項目としている。</p> <p>この到達目標をもとに、成績評価の基準を授業内課題を90%、授業内発表を10%としている。</p> <p>1576名の成績評価の内訳は、S評価(100～90点)282名(17.9%)、A評価(89～80点)が508名(32.2%)、B評価(79～70点)483名(30.6%)、C評価196名(12.4%)となり、本学では成績が60点以上で合格とし単位認定しているが、1469名(93.2%)の履修者が合格をしている。ただ、D評価(59～0点)90名(5.7%)N評価(評価対象外)17名(1.1%)、合計107名(6.8%)の履修者が不合格となっており、必修科目であるため、不合格者は次学期以降に再履修することとなる。</p> <p>また、「情報・メディアと社会」の到達目標は</p> <p>①数理・データサイエンス・AIに関する基本用語について理解し、適切に利用できる。          ②データ・AI活用の実例を理解し、利点や課題を説明できる。          ③データ・AI活用に関連した法令や制度を理解し、利点や課題を説明できる。</p> <p>の3項目とし、成績評価の基準は、授業内容の理解度を確かめために学期末に定期試験(70%)、テキストの内容に関する小テストを授業内実施(30%)にて評価している。</p> <p>履修者69名の成績評価の内訳は、S評価(100～90点)3名(4.3%)、A評価(89～80点)が3名(4.3%)、B評価(79～70点)12名(17.4%)、C評価16名(23.2%)となり、合計34名(49.3%)が合格をしている。しかしながら、D評価(59～0点)16名(23.2%)N評価(評価対象外)13名(18.8%)、X評価(学期末試験欠席)6名(8.7%)、合計35名(50.7%)と半数が不合格となっている。履修登録前の予想よりも授業が高度な内容であり、履修をあきらめたり離脱するもの者が多いことが推測され、今後、合格者を増やすためには改善が必要である。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「コンピュータ・リテラシー」に対するアンケートでは、「シラバスに記載されている到達目標が達成できた」という質問に対して、有効回答数947名中「大いにそう思う」が328名(34.64%)、「そう思う」が481名(50.79%)とポジティブに回答した学生は合計809名、85.43%となり、おおむね良好であると考えられる。</p> <p>また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは、「シラバスに記載されている到達目標が達成できた」という質問に対して、有効回答数9名中「大いにそう思う」が2名(22.2%)、「そう思う」が4名(44.4%)とポジティブに回答した学生は合計6名、66.6%となり、「コンピュータ・リテラシー」よりはポジティブな回答の率は下回るものの、有効回答数が受講者が66名のうち9名と少ないため、判断が難しい。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートの質問項目に、後輩等他の学生への推奨度を問う項目はないが、「教員の話し方や説明の仕方、資料等はわかりやすかった」「教員は、意見・質問をする機会を設けるなど、受講生が疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていた」という科目担当者の授業運営方法を問う質問項目がある。</p> <p>「コンピュータ・リテラシー」では、「教員の話し方や説明の仕方、資料等はわかりやすかった」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が399名(42.13%)、「そう思う」が355名(37.49%)となり、両回答の合計が754名、79.63%で、約80%の履修者がわかりやすい授業であったと回答している。また、「教員は、意見・質問をする機会を設けるなど、受講生が疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていた」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が364名(38.44%)、「そう思う」が407名(42.98%)となり、両回答の合計が771名、81.42%であった。このことから、科目担当者は履修者に対して、わかりやすく、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていることが伺え、他の学生へ推奨することのできる授業であると言えるだろう。</p> <p>また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは、「教員の話し方や説明の仕方、資料等はわかりやすかった」という質問に対しては、有効回答数名中「大いにそう思う」が399名(42.13%)、「そう思う」が355名(37.49%)となり、両回答の合計が754名、79.63%で、約80%の履修者がわかりやすい授業であったと回答している。加えて、「教員は、意見・質問をする機会を設けるなど、受講生が疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていた」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が364名(38.44%)、「そう思う」が407名(42.98%)となり、両回答の合計が771名、81.42%であった。このことから、科目担当者は履修者に対して、わかりやすく、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていることが伺え、他の学生へ推奨することのできる授業であると言えるだろう。</p> <p>なお、授業アンケートの結果は、学内のWebポータルサイトにて提示し、学生は結果を閲覧することが可能である。これは、授業に対して既修者からのレビューとなり、これから履修する学生にとって単位修得に向けた授業への取り組みの参考となっている。</p>

<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>プログラムの履修・修得状況にて記述のとおり、本プログラムを構成している全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」は全学部1年生の必修科目となっており、1年生の春学期に45クラス開講し、1,576名が履修登録、全学教養科目「情報・メディアと社会」は全学部3年生から履修可能な選択科目となっており、2024年度は69名が履修登録している。</p> <p>また、2026年度よりカリキュラムの改定を検討しており、両科目ともに全学共通教養科目の「データサイエンス科目群」への配置を検討している。</p> <p>なお、本プログラムを修了した学生へ修了証書などの授与を検討しており、全学的に履修率を向上させようと検討中である。</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>2025(令和7)年度は本プログラムを修了し卒業した学生はいない。</p> <p>2027(令和9)年度以降の卒業生に対して、進路就職課が把握している進路・就職先の情報を利用し、進路や採用後の活躍について調査を行う予定。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムを修了した学生は2027(令和9年)年度に卒業する。2027(令和9年)年度以降に、本学で行っている卒業生の評価に関する企業アンケートに、本プログラムに関する項目を追加することになっているので、当該アンケートの回答を教育プログラムの改善に活かしていく。</p> <p>また、2024(令和6年)の本教育プログラム履修学生の状況を分析した上で、学内企業説明会に参加の企業からもニーズなどの意見収集をすることで、より充実したプログラムを目指していく。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度にて記述した内容に加え、本学の授業アンケートの質問項目には、「この授業受け、さらに深く勉強したくなった」、「意義のあるものであった」という2項目がある。「コンピュータ・リテラシー」では、「この授業受け、さらに深く勉強したくなった」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が303名(32.00%)、「そう思う」が392名(41.39%)となり、両回答の合計が695名、73.39%で、7割以上の履修者がさらに深く学びたいという回答をしている。また、「意義のあるものであった」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が409名(43.19%)、「そう思う」が421名(44.46%)となり、両回答の合計が830名、87.65%と、9割近い履修者が意義のある授業であったと回答している。</p> <p>また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは、「この授業受け、さらに深く勉強したくなった」という質問に対しては、有効回答数9名中「大いにそう思う」が2名(22.22%)、「そう思う」が6名(66.67%)となり、両回答の合計が8名、88.89%で、約9割の履修者がさらに深く学びたいという回答をしている。また、「意義のあるものであった」という質問に対しては、有効回答数9名中「大いにそう思う」が3名(33.33%)、「そう思う」が4名(44.44%)となり、両回答の合計が7名、77.78%と、8割近い履修者が意義のある授業であったと回答している。</p> <p>これらのことから、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることができていると推察される。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>授業アンケートの質問に「教科書やプリント等の教材が適切に使用されていた」という項目があり、「コンピュータ・リテラシー」では、有効回答数947名中「大いにそう思う」が379名(40.02%)、「そう思う」が398名(42.03%)で、両回答の合計が777名、82.05%の履修者が教材が適切に使用されていると回答している。しかしながら、「受講生が自ら考えるような機会がみられた」という質問に対しては、有効回答数9名中「大いにそう思う」が1名(11.11%)、「そう思う」が3名(33.33%)、両回答の合計が4名、44.44%で、こちらの科目においても他の質問項目と比べると肯定的な回答が低い結果であった。</p> <p>また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは、「教科書やプリント等の教材が適切に使用されていた」という項目では、有効回答数9名中「大いにそう思う」が3名(33.33%)、「そう思う」が4名(44.44%)で、両回答の合計が7名、77.78%の履修者が教材が適切に使用されていると回答している。しかしながら、「受講生が自ら考えるような機会がみられた」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が289名(30.52%)、「そう思う」が361名(38.12%)、両回答の合計が650名、68.64%で、他の質問項目と比べると肯定的な回答が低い結果であった。このことから、教材の使用に関しては効果的に活用がなされているものの、今後は主体的に学ぶ学修への改善が必要であると考え、充実を図りたい。</p>